



長野県看護大学学報



水中運動講座参加者の皆さんとプロジェクトメンバー 2列目右から3番目が那須先生

水中運動講座が20周年を迎えました

平成7年長野県看護大学開学の4年後に温水室内プールが完成し、すぐに地域の高齢者の参加を募り月に2回の高齢者水中運動講座が開催されるようになりました。初期には奥野茂代老年看護学教授、田村正枝成人看護学教授、両宮多喜子看護管理学教授等の錚々たる大学創立メンバーを擁し、常に50名～100名の参加者を得て、前半10年は私那須裕が、その後はずっと太田克矢教授が代表を務めてきました。プールを作りまたその維持管理に多大なご苦勞を賜った長野県、大学当局や管理の皆様のお陰で、このプロジェクトは継続してこられたのです。現在は心理学、哲学、基礎看護学、地域・在宅看護学、老年看護学、語学等の多岐にわたる分野の教員が参加して下さり、里山在住高齢者のヘルスプロモーション活動と大学の教育、研究との連携という、他では見られない独自のプロジェクトを盛り上げ継続し発展させてくれています。



長野県看護大学名誉教授 那須 裕

令和元年度第1回公開講座

去る令和元年9月28日(土)、第1回公開講座を開催しました。今回は、昭和伊南総合病院内科診療部長・消化器病センター長 堀内朗先生をお招きし、「イグ・ノーベル賞と大腸癌」と題してご講演いただき、118名という多くの皆様にご参加いただきました。堀内先生はご自身の幼少期の頃のお話から、イグ・ノーベル賞を受賞され、現在に至るまでの業績をご紹介下さり、講演後は参加者からの質問にも答えて下さいました。参加者からは「お話がとても楽しく、質問にも一つ一つ分かりやすくお答え下さり、ためになった」、「検査を受けようという気持ちになった」と高評価を得ました。



広報・交流委員会：小原 綾香 (小児看護学分野助手)

学長コーナー

昨年の干支は「己亥(つちのと・い)」年(いのしし年)でした。いのししは無病息災・作物の神様で縁起の良い動物とされていますが、昨年10月12日静岡県伊豆半島に上陸した台風19号は日本各地に甚大な被害をもたらしました。長野県でも千曲川の堤防が決壊して長野市の市街地では大規模な浸水被害が発生しました。被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

今年の干支は「庚子(かのえ・ね)」年(ねずみ年)です。子年は十二支のサイクルがスタートする年、新しい運気が始まる年でもあることから、すべての人の可能性が開花し夢が実現することを願っています。加えて、2020年は東京で2回目のオリンピックが開催されることから、日本にとって新たな発展の節目となることでしょう。



駒ヶ根市で盛んだった養蚕・製糸業の繭を使ったまゆクラフト作品
駒ヶ根シルクミュージアム様から、2019まゆクラフト作品展 駒ヶ根市文化財団理事長賞受賞作品をお借りし、本学管理棟ロビーに展示させていただきました。

本学も今年26年目を迎えます。「地域に学び、未来を拓く」行動理念のもと、地域の課題に積極的に取り組むとともに、開学の原点に立ち返り、「グローバル(Global)」と「チャレンジ(Challenge)」と「ケアカ(Caring)」と「英知(Wisdom)」の4つを行動目標として、創造性豊かで有為な看護人材を育成・輩出する教育研究を推進したいと思います。本学の所在地である駒ヶ根市はかつて養蚕・製糸業が盛んでした。そうした地域の歴史や文化を通して、とりわけ新入生が入学早期に地域を身近に感じられる仕組みを構築し、本学の行動理念を感知・感触してほしいと考えています。

引き続き、本学の教育理念である「学生個々人のもつ可能性が最大限に開花すること」を目指し、オリジナリティとブランド力を高め、国内外から人々を引き寄せる個性豊かで魅力溢れる大学(Hub/Magnet College)づくりに邁進したいと存じます。

2020年吉日 学長 北山 秋雄

認定看護師 教育課程は 今年度をもって 閉講となります

令和元年、最後の認定看護師教育課程の実習に送り出して間もなく台風19号により各地で甚大な被害が起きました。研修生は県内外に派遣されていることもあり、今回も指導者や関係者に助けられました。思えば、認定看護師教育課程は、講師、実習指導者、また受け入れ施設の関係者、学内の講師及び事務の方など沢山の皆さんに支えられて、自分の看護を深めることが出来たと考えています。この駒ヶ根に看護師の学びの場があったこと、多くの方々に支えられたことに深く感謝いたします。



認定看護師教育課程：高山 陽子(主任教員)

RUN伴こまがね 2019 への参加

認定看護師教育課程認知症看護分野7期生14名は、9月28日(土)に開催されたRUN伴こまがね2019に参加しました。RUN伴とは、「認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのタスキをつなぎゴールを目指すイベント」です。駒ヶ根市では、今回で3年目の開催になり100名以上の方が参加されました。

こういった活動を通して認知症者と関わり、認知症の理解を深め、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける社会となることを切に願います。



認定看護師教育課程 認知症看護分野 7期生一同

学生活動報告

糖尿病キャンプに参加しました



I型糖尿病に興味を持ち、2019年8月8日(木)、9日(金)に松本青年の家で行われた糖尿病キャンプにボランティアとして参加しました。I型糖尿病の小・中学生が自己管理に必要な知識を身につけるために一緒に行動し、困っている時はアドバイスをしました。I型糖尿病の子どもは、疾患の自己管理以外は他の子どもと同じ生活ができ、これが周囲の理解を得にくい理由と認識しました。また、発達段階に応じた支援の難しさを感じ小児看護に更に興味がわきました。

看護学部3年生 坂田 智美さん

←子どもと一緒に食事のカーボカウント(炭水化物量の計算)をしている坂田さん

第24回鈴風祭が終了しました

今年度の鈴風祭が終わり、正直やっと終わったという解放感がとても強かったです。準備期間は長く、1人で悩むこともありましたが、他の実行委員や企業の方々など様々な方のご協力があり、乗り越えることが出来ました。この経験から私は協力することや、まわりに感謝することがなによりも大切なのだと知りました。そうすることで自然と大きな問題は小さな問題になるのだと身をもって学びました。実行委員長は大変でしたが、今はやり遂げてよかったという充実感を大きく感じています。

実行委員長 看護学部2年生 篠崎 和樹さん



大宮五十鈴神社例大祭に参加しました



毎年9月の秋分の日に行われる大宮五十鈴神社例大祭に私を含め学生18名が参加しました。お祭りを通して、駒ヶ根市に残る文化に感動すると同時に、普段ではなかなか触れることができない地域の方々の温かさを、身を持って感じました。お祭りが終わった後も地域の方との関係は続いており、駒ヶ根での生活がより楽しくなりました。地域に目を向けると様々な人とつながる機会がたくさんあります。私は今春に卒業しますが、これからも学生が地域との関わりを持ち続けてほしいと強く思います。

看護学部4年生 白鳥 魁人さん

よさこいサークル鼓魂が「準おいでなんしょ大賞」を受賞しました



よさこいサークル鼓魂は、11月3日（日）に駒ヶ根市で開催された「第7回どまつりin信州駒ヶ根 おいでなんしょ祭」に参加し、一般の部で「準おいでなんしょ大賞」を受賞致しました。長野県内各地、愛知県、岐阜県から参加した全15チームのうち、2位という名誉ある賞を受賞できたのは、日頃から支えてくださっている皆様のおかげだと思っております。本当にありがとうございます。

また、これからも地域の皆様に笑顔を届けられるように精一杯活動していきますので、よさこいサークル鼓魂をあたたく見守って下さると嬉しいです。今後もよろしくお願い致します。

10代目よさこいサークル鼓魂 一同

(代表 看護学部2年生 相澤 未来さん)

卒業研究に取り組みました



左から1番目が山崎さん

私は精神看護実習で統合失調症患者を受け持たせていただきました。病棟で入退院を繰り返していた患者がいることを知り、入退院を繰り返す要因と効果的なアプローチを明らかにしたいと考え、卒業研究に取り組みました。研究を進めるなかで、指導教員から様々な助言をいただき、研究や発表の方法について学ぶことができました。卒業研究を通して、精神科の現状を改めて考え、統合失調症患者が再入院を繰り返す要因から再入院を予防するためのアプローチについて学ぶことができました。

看護学部4年生 山崎 冴織さん

私は、「家族介護者の介護に対する思いと介護負担感への対処」というテーマで研究を行いました。2名の介護を終えた介護者の方から、貴重な介護場面に対する思いや対処をお聞きし、改めて在宅で療養者を支え、介護することの大変さを知ることができました。同時に訪問看護師への感謝の思いが聞かれたことから、訪問看護師の支援の重要性も痛感しました。結果で明らかになった介護者の思いを常に念頭に置きながら看護ができる看護師でありたいと思います。貴重な研究にご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

看護学部4年生 本島 すみれさん



前列右から3番目が本島さん

フォト かんごだい

令和元年7月～12月の行事等報告



7月27日
オープンキャンパス



8月25日
地域合同防災訓練



9月7-8日
鈴風祭



10月26日
ふれあい花壇整備作業



10月27日 第26回みなこいワールドフェスタ
で踊るよさこいサークル鼓魂①



10月27日 第26回みなこいワールドフェスタ
で踊るよさこいサークル鼓魂②



10月28日
学生のハンドベル演奏(精神看護実習
のレクリエーション場面)



11月15日
消防避難訓練①



11月15日
消防避難訓練②



11月20日
実習施設オリエンテーションの様子
(精神看護実習)



11月21日
動物慰霊祭



12月19日
地域・在宅看護学分野
卒業研究発表会

大学の活動紹介

高齢者ケア看護研究会



高齢者ケア看護研究会事務局：細田 江美（老年看護学分野講師）

高齢者ケア看護研究会は、2003年に県内の介護保険施設で孤軍奮闘する看護師を対象に、ケアの質向上と会員相互の情報交換の場となることを目的に発足しました。現在は、本学を事務局とし、看・介護職、歯科衛生士など県内の高齢者ケアに携わる多職種約80名が参加されています。主な活動内容は、認知症ケアや高齢者の意思決定支援など会員

のニーズを取り入れた研修会の開催と、その内容や施設紹介などを盛り込んだ情報誌「やわらかい風」の発行を行っています。今後も研究会の活動をサポートしつつ、高齢者ケアの質向上に貢献していきたいと思っております。



松川町立松川中学校 キャリア学習大学訪問

広報・交流委員会：下村 聡子（地域・在宅看護学分野助手）

令和元年6月14日（金）に松川町立松川中学校2年生の皆さんと先生方が、キャリア学習のためご来学くださいました。教員による看護職の仕事や本学で学ぶこと等の説明と施設見学の後、学生から看護職を目指したきっかけや、進路選択で大事にしたこと等をお話しました。生徒の皆さんは、大講義室や実習室等の大学の雰囲気や心弾ませつつ、教員や学生の話に熱心に聞いてくださいました。その真剣な眼差しや元気で清々しい挨拶から、私たちも活力をいただきました。生徒さんが将来を描くとき、本学での一時が少しでもお役に立てれば嬉しく思います。



オープンキャンパス

広報・交流委員会：有賀 美恵子（精神看護学分野准教授）



令和元年7月27日（土）にオープンキャンパスを開催しました。受付開始前から多くの方々にご来場いただき、大学説明会、看護（実験）体験コーナー、個別進学相談、模擬授業、キャンパスツアー、学生コーナーなど様々なプログラムにご参加いただきました。今年度は、620名の高校生や保護者の皆様にご参加いただき、「学生さんが明るく笑顔で接して下さり好感が持てた」「看護師になりたい気持ちがさらに強くなった」などの声をお寄せいただきました。来年度は令和2年8月1日（土）に開催いたします。皆様のお越しをお待ちいたしております。



INFORMATION



令和元年度第2回公開講座 「西垣内磨留美教授退任記念講演」

テーマ:世界の女性とともに

入場無料
申込みの必要は
ありません。
どなたでもご参加
いただけます。

講師 西垣内磨留美教授

日時 令和2年2月15日(土)13:30~15:00 (受付開始13:00)

会場 長野県看護大学 3階大講義室

講演内容 実は「世界」というのは大げさなのですが、これまでの研究を振り返ってみると、それぞれのテーマは異なっていますが、女性に関する事柄が何らかの形で含まれていたように思います。ここでは、アメリカ文学・文化を中心に、女性たちの姿、そしてその人生に登場する人々の姿をみなさまにお伝えし、そこから得られるものをご一緒に探っていきたいと考えております。

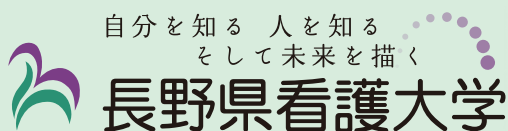
お問い合わせ先 長野県看護大学 事務局
教務・学生課担当 ☎0265-81-5100

第16回 長野県看護大学研究集会

日時 令和2年3月18日(水)9:30~17:00(予定)

会場 長野県看護大学 教育研究棟

対象 本学教職員、学生、看護職者ほか



〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <http://www.nagano-nurs.ac.jp/>



長野県看護大学学報
No.49 (令和2年1月)

編集・発行
長野県看護大学広報・交流委員会